

2010/09/03

若手研究者渡航費助成金による ICMRBS 2010 参加報告書

大阪大学 蛋白質研究所 機能構造計測学研究室
特任研究員 古板 恭子

平成 22 年度第 1 回若手研究者渡航費助成を賜り、平成 22 年 8 月 22 日～27 日に開催された XXIVth International Conference on Magnetic Resonance in Biological Systems (ICMRBS) に参加致しました。本年度の ICMRBS はオーストラリアのケアンズで開催されました。南半球にあるオーストラリアは 8 月といえば冬のはずですが、会期中の日中の気温は 30°C 弱、日差しが強く、外は暑いくらいでした。

本学会への参加は、生体系の NMR に関する多岐にわたる話題にふれる良い機会となりました。初日を除き、学会は朝 8 時 30 分より開始され、夜 7 時前まで続きました。その間、NMR 漬けです。一日中 NMR に関わっているという点では、普段の生活も変わらないはずですが、密度が違いました（疲れました）。講演要旨集が会場で配布されるものと思っていたのですが、要旨集は配布されませんでした。そのため、パラレルセッションの際、どの会場に行くかはプログラムにある講演タイトルに頼るしかありませんでした。タイトルを見て、なんとなく興味を引かれたタイトルがある部屋に足を運びました。溶液、固体、ダイナミクス、立体構造、測定手法、イメージングと様々な講演を聴くことになりました。ポスターセッションでは演題集すら貰わなかったもので、全てのポスターを一通り回って眺めてきました。結果として、幅広い議題に触れることができました。

私は”NMR and mutagenesis studies of the interaction of ER membrane protein VAP-A with intrinsically disordered protein OSBP”という演題でポスター発表をして参りました。タンパク質複合体の立体構造解析、及びその複合体の形成機構の解析に関する発表です。思いのほか多くの方がポスターを見に来て下り、有り難かったです。似たようなタンパク質複合体の系を研究されている方とも議論でき、有意義な討論時間が過ごせました。

最後になりましたが、本学会への参加支援をして下さった皆様方に心より御礼申し上げます。